



まほろん通信

VOL.31

(平成21年1月15日発行)

福島県文化財センター白河館

〒961-0835

白河市白坂一里段 86

TEL 0248-21-0700 (代)

FAX 0248-21-1075

URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



餅つき大会のようす

12月7日(日)に体験広場でまほろんイベント「餅つき大会」を行い、約120名のみなさんが餅つきに参加されました。現代のお餅つきはお正月などのおめでたい時節に食べるために横杵と臼よこぎね うすを使って行われています。そもそも杵と臼は、稲作とともに弥生時代に伝えられた堅杵と臼で、脱穀だっこくなどに使われていたと考えられます。まほろんには、宮城県中在家南遺跡からみつかった弥生時代の杵と臼の復元品があります。今回も、この復元品と現在の横杵を使って餅つきを行いました。

昨年までは、堅杵と横杵を使って二つの臼でお餅をついていましたが、より多くのみなさんにお餅つきを体験してもらおうと臼を一つ増やして、三つの臼でお餅をつきました。杵と臼を使ってお餅をつくまでには、餅米を洗って水に浸し、それを蒸かし、さらに臼でよくつぶしたりと様々な前工程があります。昨年まで職員とボランティアが行っていた、蒸かした餅米をつぶす作業も子供たちに体験してもらいました。粒々の餅米がきれいなお餅に変わる様子は、参加した子供たちにはとても不思議に感じられたようでした。

つくたてのお餅は、体験してくれたみなさんに持ち帰っていただきました。



体験学習

第8期「まほろん森の塾」の活動

「まほろん森の塾」とは、年間を通じて昔の生活全般について広く体験しようという連続講座で、今年度のテーマは、縄文時代の「衣・食・住」でした。

縄文土器づくりに始まり、弓矢や石匙(石のナイフ)、そして鹿の角でアクセサリーづくり。また、まほろんに生えているカラムシから糸を作る体験も行い、それらの糸を鹿の角のアクセサリーや石匙に結び付けました。道具をつくる体験は、なかなか思うようにつくれない場合もあります。そんな時、塾生たちは縄文人の知恵と技術に感心したようです。

縄文時代は、現代の私たちが使っている様々な道具の原型をすでに作っていた時代です。塾生たちには、先人の営みがあって初めて、今の生活があることを、今回の活動を通して感じ取ってもらえたら幸いです。

最後の活動時、縄文土器で煮込んだスープや縄文クッキーを食べながら、「来年も森の塾に入りたいな～」と話してくれる塾生がいました。ありがとう！とても嬉しい言葉です。ところで、中にはすごく気の早い塾生も。7月頃、「塾長～、今から来年の森の塾の予約できないの?」、塾長:「まだ今年度の活動終わっていないのですけど…」。来年度も、参加してくれた塾生たちの期待に応えられるよう、頑張らないといけな～。



＜第3回「弓矢づくりとお泊り会」のひとコマ＞

まなびピアふくしま 2008 報告

実施期間:平成20年10月11日(土)～15日(水)

「まなびピアふくしま2008」主会場であるビッグパレットふくしま生涯学習体験広場に、まほろんも出展しました。内容は、「ほんものの歴史を味わう時空間」をコンセプトとし、縄文射的(写真右)と古代製鉄炉踏み鞆体験を実施しました。

おかげさまで年少の子供さんから年配の方まで性別・国籍を問わず、たくさんの方に体験していただき、その体験者数は1,705人を数えました。

古代の鍛冶体験

11月1日と2日、まほろんイベント「古代の鍛冶体験」を行いました。平成19年の「鉄づくり」イベントでできた鉄を素材に、泉崎村観音山北横穴墓から出土した蕨手刀(柄がワラビのような形をした刀)をモデルにしたペーパーナイフを作りました。

炭火の中で鉄棒の先を赤らめ、刃の部分をトンテンカン叩いた後、全体を整形し、柄にカラムシの糸を巻き上げて完成です。完成したペーパーナイフは、参加者の宝物になりました。また、大槌(8kgの重さの金槌)を使った模範鍛錬も行われました。



＜赤めた鉄をトンテンカン＞



＜模範鍛錬のようす＞



＜縄文射的のようす＞

企画展案内

新編陸奥国風土記 巻之七 信夫郡

会 期：平成 21 年 3 月 14 日（土）～ 5 月 17 日（日）

会 場：まほろん特別展示室

入場料：無料

まほろん春の展示「新編陸奥国風土記」も今回で第 8 回を迎えます。この展示は、館に収蔵されている考古資料などから、県内各地域の歴史や当時の人々の営みを復元し、新たな風土記の世界を紹介するものです。

巻之七となる今回は、福島市を対象地域として「信夫郡」をテーマとしました。

当地域では、摺上川ダム関連、東北新幹線関連などに係る多くの考古資料がまほろんに収蔵されています。今回は、縄文時代から信夫郡成立後の平安時代までを中心に古代の人々の営みをたどっていきます。

縄文時代では、摺上川ダムの建設に伴い、上流域の茂庭地区で、数多くの縄文時代の遺跡の発掘調査が行われました。中でも、獅子内遺跡では、福島市内でも最大規模の縄文時代前期に営まれたムラの跡が見つかっています。

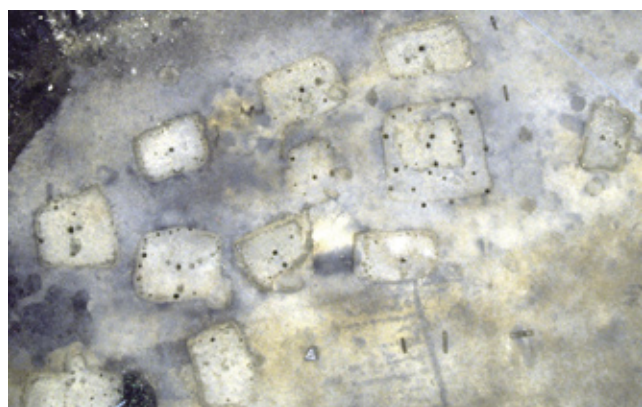
平安時代の遺跡では、東北新幹線関連の発掘調査で見つかった福島市御山地区の御山千軒遺跡を紹介します。御山千軒遺跡は、信夫山の北側に営まれた集落跡

です。集落跡の北側を流れる川縁からは、墨書土器やたくさんの木製品とともに、桃の種やクルミが見つかりました。多くの桃の種が見つかったことから、夏に何らかのお祭りが水辺で行われていたものと考えられます。

考古資料やパネルを使って、信夫の地に暮らした人々の営みをわかりやすく紹介していきます。皆様のご来館をお待ちしております。



＜御山千軒馬形・刀形木製品＞



＜獅子内遺跡縄文前期住居跡群＞

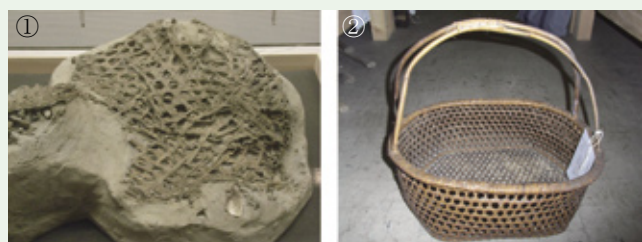
まほろん研究広場

あじろ 網代を考える～「縄文時代から現代に続く技術の連続性」～

網代とは、薄く加工した竹や蔓、樹皮などの植物質の材を縦横または斜めに規則的に組んだ編物のことです。編み方や材質の形状を変えることで様々な種類の網代を作ることができます。例えば、立体的に編み組めば、籠や笊のようなものになり、平面的に編み組めば、敷物のようなものになります。

私たちの祖先がいつごろから網代を製作し、使用していたのかは、まだよくわかりませんが、現在のところ、約 7000 年前の佐賀市東名遺跡（写真①）から出土した六ツ目編籠が最古と言われます。遺跡から出土する網代その他の植物製品は、日本が酸性土壌で覆われているため、低湿地などの空気が遮断されるという特殊な環境を除いては、ほとんど残存することはありません。

一方、土器の底部に残る網代の痕跡は比較的多く残っています。これは木の葉や網代などを敷いて、製作中の土器の底部が地面などに付着するのを防ぐとともに、敷物をロクロのように使ったからです。土器の底部に残る圧痕はまさにこの時に付いたもので、このことから土器に残る圧痕は、当時の網代を復元するのに極めて重要な資料になっています。県内では山内幹夫氏（福島県歴史資料館）が、4000～3000 年前



①六ツ目編籠（東名遺跡出土）『発掘された日本列島 2007（文化庁）』②六ツ目編籠（只見町教育委員会）

の郡山市荒小路遺跡から出土した土器底部に認められる網代圧痕について、編み型の判別可能な 28 点を対象に 5 型に分類しています。県外では荒木ヨシ氏が東日本の遺跡から出土した膨大な数の土器底部を観察して、46 種類に網代編みの類型を体系化したことが有名です。これらの研究成果により、縄文時代には多種多様な網代が作られていたことがわかりました。

六ツ目編籠（写真①と②）は一つの例ですが、注目すべきは、現代の民具などに見られる網代の編み方は、縄文時代にはほぼすべてそろっていたということです。つまり縄文時代の網代作りの技術が、連綿と今日まで受け継がれてきたのです。

これまで福島県内では土器底部の圧痕の分析は、詳しく行われてきたとは言えません。これまでの底部圧痕を再検討していけば、時期や地域による傾向が一層明確になっていくことでしょう。当館には、それらの研究資料が多数所蔵されており、その検証が期待されます。（専門学芸員 佐藤悦夫）

文化財研修

専門考古学講座Ⅱ「奥州平泉の調査成果」

開催日時：11月29日（土） 13:30～15:30

外部講師：八重樫忠郎氏（平泉町）

岩手県平泉町から八重樫忠郎氏をお招きし、『奥州平泉の調査成果』と題して文化財研修を行いました。

今年度の専門考古学講座は、考古学の視点から東北地方の古代、中世史を学ぶ内容となっています。今回は世界遺産登録を目指す‘平泉’に関連するお話ということで、他の研修と比べて大きな反響がありました。

日本での中世考古学は、平泉関連の大規模な発掘調査によって大きな進展がありました。それまでの中世陶磁器を対象とした遺物の研究から、遺跡と遺跡を結びつける都市空間研究へと対象が広がっていったのです。また、都市平泉の成立は中世の始まりにあたります。このことが他の遺跡との良好な比較材料となり、平泉関連の調査成果は中世史研究のひとつの基準となっています。

もちろん奥州藤原四代の盛衰と、それらが築いた平泉とその文化は大変魅力的なものです。中尊寺に残された仏像や経典などの優れた仏教美術とともに、初代清衡が建立した中尊寺をはじめ毛越寺などの関連寺院は、浄土思想のもと平安京を倣^{なら}って築き上げた都市平泉の栄華を物語っています。その一方で、中心施設で

まるごとまほろん試行

当館には、県内各地から発掘調査で出土した考古資料が数多く收藏されています。これらの資料をが出土した地で公開・展示し、あわせて体験学習も行う「まるごとまほろん」を来年度以降の実施に向けて試行しました。

第1回目は、「まるごとまほろん飯舘村」として10月25・26日に飯舘村中央公民館で実施しました。中央公民館は、飯舘村文化祭の会場になっており、その一室を利用して実施しました。内容は、真野ダム関連遺跡の資料の遺物や写真パネルの展示と、勾玉づくり、火おこしの体験学習を行いました。当日は、424名のみなさんが参加されました。

第2回目は、「まるごとまほろん北会津」として11月8・9日に会津若松市北会津公民館を会場に実施し

まほろんからのお知らせ

「おでかけまほろん」「まほろん出前講座」募集

来年度の学校や公民館向けの館外体験学習事業の募集を2月初め頃に行う予定です。

参加希望の学校・公民館は案内を待っていてください。



<研修のようす>

あった平泉の館と考えられる柳之御所遺跡^{やなぎのごしよ}は、厳重に堀を巡らした軍事色の強いものです。東北地方の古代・中世史を考えるうえで、中世奥州藤原氏、都市平泉の歴史的な位置づけは今後の大きな課題なのです。

講師の八重樫氏は、柳之御所遺跡をはじめ関連史跡の数々を調査・整備し、登録に向けて奔走^{ほんそう}する忙しい日々を送られています。直接担当された方の臨場感あるエピソードを交えた講演内容に、会場の皆さんは東北中世史の奥深さにますます魅了されたようです。

さて、次回の専門考古学講座は2月28日に東北大学の深沢百合子氏による『北方民族と禁鉄政策』を予定しています。こちらも、どうぞ御期待ください。



<まるごとまほろん飯舘村>

ました。内容は、北会津町和泉遺跡資料の展示とその講演会、火おこし、勾玉・こはく玉・鹿角アクセサリづくりの体験学習で27名が参加されました。

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。）

その他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。